

# 國學院大學學術情報リポジトリ

## 教員免許取得希望の大学生における教師観に関する 一考察：テキストマイニングによる質的分析

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 寺本, 貴啓 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.57529/00001209">https://doi.org/10.57529/00001209</a>

# 教員免許取得希望の大学生における教師観に関する一考察

## —テキストマイニングによる質的分析—

寺本 貴啓

A Study on the Students' Consciousness about the Teaching Profession in the university student who wants to acquire a teaching certificate.

Teramoto Takahiro

キーワード：大学生、教員養成、教師観、テキストマイニング

### 1. はじめに

時代の変化に伴い、免許更新制や教員研修が今日話題になっているように、教員養成に関する改革が求められている。これまでも答申等で教員養成に関する方向性が数多く打ち出されており、これから求められる教師像や資質能力、養成システムについて述べられている。教育職員養成審議会（1997）「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について（第1次答申）」<sup>1)</sup>では、教員に求められる資質能力や、大学の教職課程の役割、カリキュラムの改善などについて提言がなされており、教育委員会、大学、免許や研修システムなどにおける教育環境の構造改革の必要性が述べられている。中央教育審議会（2005）「新しい時代の義務教育を創造する（答申）」<sup>2)</sup>では、あるべき教師像が明示され、①仕事に対する使命感や誇り、子どもに対する愛情や責任感、学び続ける向上心などが含まれる「教育に対する強い情熱」、②子ども理解力、児童・生徒指導力、集団指導の力、学級作りの力、学習指導・授業作りの力、教材解釈の力などが含まれる「教育の専門家としての確かな力量」、③豊かな人間性や社会性、常識と教養、礼儀作法をはじめ対人関係能力、コミュニケーション能力などの人格的資質が含まれる「総合的な人間力」の3つの要素が重要であるとしている。また、中央教育審議会（2006）「今後の教員養成・免許制度の在り方について（答申）」<sup>3)</sup>では、教員をめぐる状況の変化から「社会構造の急激な変化への対応」「学校や教員に対する期待の高まり」「学校教育における課題の複雑・多様化と新たな研究の進展」「教員に対する信頼の揺らぎ」「教員の多忙化と同僚性の希薄化」「退職者の増加に伴う量及び質の確保」の6点に改革の視点が整理され、教員を取り巻く社会環境の変化から教員の資質能力を問直しそうとしている。そして、現在教員に最も求められていることを、「広く国民や社会から尊敬と信頼を得られるような存在となること」とし、改革のなかでも教員養成・免許制度の改革を、改革の出発点として位置付けようとしている。

上述の背景より、今日の教員養成系大学では、「『教職実践演習』の新設・必修化」「教育実習の

改善・充実』『教職指導』の充実』『教員養成カリキュラム委員会の機能の充実・強化』などを行うことで指導環境の改革がすすめられており、即戦力になり、実践的な能力を身に付ける教師の育成のために、具体的に教師としてどのような能力が必要か、大学として再考する時期が来ているのである。

現職教員を対象に教員に求められる資質能力を調査した先行研究によると、山崎（2007）<sup>8)</sup>では「教師として必要なものは何か」という問いに対して、「子ども理解」「人格的資質」の項目が最も選択されており、別惣ら（2007）<sup>1)</sup>の「教職に就く新任教師に求められる実践的資質能力」について57項目を5段階評定させた調査では、「子どもとの接し方」「教師としてのふさわしい言動・態度・意識」が高い得点を得ている。また、日本教育会（2001）<sup>7)</sup>では、「教師に望まれる資質」と「教師に必要な能力」を分けて調査した結果、資質面では「教職への情熱・使命感」「豊かな人間性」、能力面では「教科の指導力」「子どもを掌握する力」が高い得点を得ている。つまり、現職教員や教育の専門家の立場からは、「子どもの理解と対応」「教師としての意識・態度」「教師としての情熱」といった、教師としての内面性を重視する傾向にあるようである。

以上より、教員養成課程をもつ大学として、これから求められる教員を育成するためには、教師としての意識を高めながら、具体的な学習場面を設定して実践的な指導を学ぶ機会を増やしたり、これまでの教育理論を具体的な学習場面に当てはめて解説したりするなど、さらなる工夫が求められていくと考えられる。また、教員は児童・生徒・保護者など、人を相手にする仕事であるため、人間関係づくりや指導する上での児童・生徒の見取り方、見取りに対する指導方法など、相手や状況に応じた素早い判断力や対応力の育成においても、ある程度の指導を行う必要があるだろう。

しかしながら、一般的な大学の講義では、実際に児童・生徒と一緒に授業を行うわけではなく、学生は、具体的な児童・生徒の発達段階や現状がイメージしにくい中で、教員としての資質能力を身に付けていかなければならない。このような、子どもたちと接する機会が少ない現状に対して、今日では、教育実習だけではなく、ボランティア活動やインターンシップへの参加促進が進められているが、これらの対応でも対人関係能力の育成に関して十分であるとはいえない。また、教育活動は、子どもが変われば教師の対応が変化するように、教師としての指導方法は多岐にわたり、教員経験を積まなければ身につかない内容も多い。大学生に対する教師の力量に関する研究では、大学3年生の教育実習後に身につく自己評価で調査・分析した研究がある。これらの先行研究では、「教授に関する力量」や「子ども理解に関する力量」の項目が有意に伸びた一方で、「評価に関する力量」が伸びなかった（米沢,2010）<sup>9)</sup>、授業評定力が低い（三島,2008）<sup>5)</sup>という結果であるように、教員としての資質能力の習得には段階があり、その習得には学習環境が大きく影響しているようである。つまり、大学での教員養成に関する指導内容は、在学中に身につけられるもの、就職後にしか身につけられないものを明確にし、段階的に指導していく必要があるといえる。

以上のように、大学生に対して教師としての力量を向上させるためには、具体的な教育場面と

関係づけて段階的に指導していくこと、指導内容を明確化し段階的な指導を行うことが重要であることがわかる。またこのことは、教員を取り巻く社会や子どもの変化だけを考慮するのではなく、変化しつつある学生も考慮しなければならないだろう。

このような背景から、本研究では、教師として仕事を行う上で基となる「教師としての意識」に着目する。そして、「教師としての意識」をより精緻に明確化していくことが、教員養成系学部としての指導の在り方を明確にすると考え、大学生の教員に関する意識の状況を調査した。

## 2. 目的

本研究の目的は、教員免許の取得を希望する大学2年生の4月と7月時期における教師観、指導観、児童・生徒観のアンケートにおける動詞句、形容詞句の出現傾向調査と、該当時期前後における各観点の変化を明らかにするために、テキストマイニングによる分析を行うことである。

## 3. 方法

### 3.1 対象・時期

小・中・高等学校のうちいずれかの教員免許取得を希望する大学2年生15名を対象とし、調査は2回行った。調査時期は、第1回が平成22年4月上旬、第2回が7月下旬であった。

### 3.2 調査方法

筆者は、教員養成系学部での人間開発は、「学生自らが教師としての育てたい子ども像を明確にし（児童観）、そのための教師としての在り方（教師観）を明確にし、それらの方向に子どもたちを方向付ける具体的な手立てを実行（指導観）していくことができる人間を開発していくこと」であると考えている。そのため、教員を目指す学生の「教師としての意識」を調査するために、質問紙による自由記述で、「どのような教師になりたいか（どのような教師がよいと思うか）」（教師観）、「教師としてどのような授業を行いたいか」（授業観）、「教師としてどのような児童・生徒を育てたいか」（児童・生徒観）、という3つの質問に対する回答を求めた。

なお、学生の「教師観」「指導観」「児童・生徒観」の3つの観点を取り上げた背景として、先述のように、「教師としてすべての基となる『教師としての意識』をより精緻に明確化していくことが、教員養成系学部としての指導の在り方を明確にする」という筆者の考えや、教育職員養成審議会答申（1997）「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」<sup>4)</sup>において、「実践的な指導力につながる資質能力」として、「幼児・児童・生徒観、教育観（国家における教育の役割についての理解を含む。）」の重要性が述べられていることがある。

### 3.3 分析方法

分析方法は、大学2年の4月時期と7月時期における学生の「教師観」「指導観」「児童・生徒観」

の3つの観点に対する回答から、出現する言語の特徴を調査することと、2つの時期における時系列変化に関して分析した。なお、出現する言語の特徴の調査や時系列変化の分析では、テキストマイニングソフトのTRUSTIA TeachingAssistantを使用し、各調査時期のアンケートにおける言語出現数から特徴を調べるためにコレスポネンス分析を行った。

テキストマイニングとは、「単なる検索や分類とは異なり、複数の文章データの内容を総合的に捉えることで初めて得られる知見を抽出するための内容分析の技術」<sup>6)</sup>であり、マーケティングなどによる大量のデータから必要とする言語情報を抽出・分析し、商品開発やクレーム処理などに活かすための分析方法である。本研究においては、学生の「教師観」「指導観」「児童・生徒観」の3つの観点にの質問に対する自由記述のテキスト情報を探索的に分析・検討する際に適用した。

なお、上述のように、テキストマイニングによる分析は、マーケティング場面における大量情報の活用が一般的である。しかし、本研究の教師観の分析に関しては、15名という少数のケースを対象としている。この理由は、今後同調査法で継続的に研究で活用するための指標を検討する上で、品詞ごとの出現傾向分析を行い、学生の「教師としての意識」を検討することは有用であると考えたためである。

## 4. 結果

### 4.1 第1回調査の回答について

#### 4.1.1 教師観について

「どのような教師になりたいか(どのような教師がよいと思うか)」の回答の一部を以下に挙げる。

【学生 1-1】常に冷静で、全体を見ることのできる教師。生徒に対して絶対に平等に接する。だが、生徒が頑張ったことは、みんなの前で褒めるとか、掲示板に書くとか、何らかの方法で褒める。

【学生 1-2】児童・生徒の好奇心を引き出せるような教師が良いと思う。大人の目線で考えるだけでなく、子どもと同じ目線にも立って物事を考えられる教師。

第1回の教師観に関する回答から、学生の教師としての行動を分析するため、動詞句を抽出し、その動詞句から繋がる名詞句はどのような種類のものがあるか分析(行動分析)した。その結果、動詞句が64個抽出され、そのうち複数出現した動詞句を挙げると以下のものになった

(( )内は、各動詞句に係る主な名詞句)。

なる(教師、手本、物事、目線)、見る(生徒、全体、物事)、持つ(愛情、意見、興味)、褒める(対象語句なし)、押しつけない(考え)、協力(積極的)、聞く(話)、頼る(対象語句なし)、理解(気持ち、説明)、教えない(答え、手助け)、いる(研究者、生徒)、する(答え、方向付け)、もつ(親近感)、移す(行動)、引き出す(好奇心)、解決(対象語句なし)、寄り添う(教師、子ども)、教える(根本、勉強)、行く(自分、実際)、受ける(相談、話)、乗る(教師、相談)、接する(対象語句なし)、築く(関係、先生)、伝える(対象語句なし)、投げかける(疑問、生徒)、立つ(物事、目線)

一番出現頻度が高かった「なる」は、「〇〇な先生になる」が多く、「子どもたちの目線になって」や「手本となる」というケースなどがあつた。また、次いで多い「見る」では、「子どもの目線で見る」「全体を見る」「生徒を平等に見て」などの表現が見られた。

#### 4.1.2 指導観について

「教師としてどのような授業を行いたいか」の回答の一部を以下に挙げる。

【学生1-3】 指示を出すだけではなく、実際に自分が動くことで生徒に授業の楽しさを伝える。一方的に説明するのではなく、生徒にたくさん質問をしてコミュニケーションをとりながら説明する。

【学生1-4】 授業中、一度は教師と児童・生徒と一緒に笑い合えるようにする。授業の内容を理解しきれない子がいる時、児童・生徒同士が教え合う時間をつくる。生徒たちの「なぜ、どうして、…？」などの疑問に答える。

上述の教師観同様、学生の教師としての行動が記述されることが多いため、動詞句をを抽出し、その動詞句から繋がる名詞句はどのような種類のものがあるか分析（行動分析）した。その結果、動詞句が80個抽出され、そのうち複数出現した動詞句を挙げると以下のものになった（（ ）内は、各動詞句に係る主な名詞句）。

教える（児童、生徒同士、時間、勉強）、持つ（授業、興味、子）、行う（授業、工夫）、つく（授業、身、全員）、聞く（関係、生徒、話、声）、つくる（時間、空気、説明）、伝える（授業、重要性）、理解（クラス全体、授業）、話す（印象、自分、声）、する（参加、専門、全員）、引く（興味、授業、生徒）、学ぶ（何、授業）、書く（ノート、メモ）、理解できない（子、授業、内容）、なる（教師）、気をつける（言葉、行動、授業）、残る（授業、印象）、思いやる（児童、生徒、授業）、通す（授業、体育）、付く（授業、身、知恵）

また、指導観では、子どものあるべき姿が形容詞句として出現することが多いため、形容詞句を抽出し、その形容詞句から繋がる名詞句はどのような種類のものがあるか分析（感性分析）した。その結果、形容詞句が31個抽出され、そのうち複数出現した形容詞句を挙げると以下のものになった（（ ）内は、各形容詞句に係る主な名詞句）。

楽しい（授業、ゴロ合わせ、生徒）、色々（一つ、見方）、しっかり（自分、質問、授業内容）、よい（授業）、いけない（子、授業）、わかりやすい（授業、生徒、自分、文章）、広い（視野、授業）、多い（生徒、声）、得意（子、勉強）、面白い（人間、勉強）

抽出された動詞句の分析から、一番出現頻度が高かったものは「教える」であり、次いで「持つ」「行う」であった。「教える」という動詞句では、「しっかりと教える」「自信を持って教える」という表現があつた。また「持つ」では、「親しみを持つ」「向上心を持つ」「たくさんの引き出しを持つ」などの表現が見られた。また、抽出された形容詞句の分析で一番出現頻度が高かったものは、「楽しい」であり、次いで「色々」「しっかり」であった。「楽しい」という形容詞句では、「授業の楽しさ」「楽しいと思われながらも勉強もしっかり・・・」という表現が見られた。

#### 4.1.3 児童・生徒観について

「教師としてどのような児童・生徒を育てたいか」の回答の一部を以下に挙げる。

【学生1-5】 やるべき時はしっかりやり、ふざける時は本気でふざけるけじめのつけられる生徒。協調性があり、仲間を思いやれる生徒。

【学生1-6】 周りの意見を聞きながらも、自分の意見をしっかりとと言える。興味があることは何でもまずは挑戦し、出来なかったらまずは何を直すべきか等、自分で考えられる。勉強だけでなく行事や遊びなど、何事も積極的に取り組む。

児童・生徒観では、子どものあるべき姿が形容詞句として出現することが多いため、形容詞句を抽出し、その形容詞句から繋がる名詞句はどのような種類のものがあるか分析（感性分析）した。その結果、形容詞句が21個抽出され、そのうち複数出現した形容詞句を挙げると以下のものになった（（ ）内は、各形容詞句に係る主な名詞句）。

優しい(気持ち、環境、人間関係)、うまい(コミュニケーション、周り)、しっかり(意見、自分)、嫌い(運動、子ども)、素直(気持ち、自分)、的確(実行、判断)、様々(環境、人間関係)

抽出された形容詞句の分析で一番出現頻度が高かったものは、「優しい」であり、次いで「うまい」「しっかり」であった。今回の場合形容詞句は、学生が育てたい児童・生徒像を直接表現しているものといえる。

### 4.2 第2回調査の回答について

#### 4.2.1 教師観について

「どのような教師になりたいか(どのような教師がよいと思うか)」の回答の一部を以下に挙げる。

【学生2-1】 私が(いろいろと考えた上での) になりたい教師像は、“一番に生徒のことを考えることができる教師”です。ただ漠然と生徒に学習内容を教えるだけでなく、生徒の将来を見据えたうえで、日常生活一つ一つの事柄をしっかり指導できるようになりたいです。また、指導の時も、上から一方的に押し付けるのではなく、同じ目線に立って話をしていきたいです。

【学生2-2】 生徒1人1人に対応した教え方を考えられる教師。アドバイスをしたり、見守ったり、応援したり、タイミング良く生徒に刺激を与えられる教師。答えを見つける手助けができる教師。

第2回の教師観に関する回答から、学生の教師としての行動を分析するため、動詞句を抽出し、その動詞句から繋がる名詞句はどのような種類のものがあるか分析（行動分析）した。その結果、動詞句が50個抽出され、そのうち複数出現した動詞句を挙げると以下のものになった

(( )内は、各動詞句に係る主な名詞句)。

なる(教師)、教える(学習内容、自信、自分、生徒、先生)、持つ(向上心、自信、親しみ、教師)、理解(個々、場面、先生、長所)、立つ(生徒目線、物事、話、立場)、区別しない(先入観、偏見)、する(話、基盤)、見つける(手助け、答え)、つける(火、知的好奇心)、とらえる(多角的、物事)、求める(生徒、先生)、見据える(将来、生徒)、見る(生徒個

人個人)、刺激(活動意欲、生徒)、伸ばす(対象語句なし)、信じる(成長、生徒)、接する(対象語句なし)、対応(教え方)、慕う(教師、生徒)、無くす(生徒、壁)、与える(教師、仕事)

一番出現頻度が高かった「なる」は、第1回同様「〇〇な先生になりたい」という表現だけであった。また、次いで多い「教える」では、「自信を持って教える」「全体を見て教える」などの表現が見られた。

#### 4.2.2 指導観について

「教師としてどのような授業を行いたいか」の回答の一部を以下に挙げる。

【学生2-3】 児童を引きつける授業。授業をして一番魅力的なのは、やはり“楽しい授業”であると思う。話術やテクニック、教材などに工夫していきたい。知恵が身に付く授業。一つのことを学ぶのではなく、そこから派生した様々な知識が身につくような授業を行いたい。表面にも書いたが、自分自身の教養を増やして行きたいと思う。

【学生2-4】 生徒のやる気や意欲を引き出せるような授業。グループワークなどを取り入れた、生徒同士や自分とコミュニケーションが取れる授業。とにかく自分が話していることに興味を持ってもらえるような授業。

上述の教師観同様、学生の教師としての行動を分析するため、動詞句をを抽出し、その動詞句から繋がる名詞句はどのような種類のものがあるか分析(行動分析)した。その結果、動詞句が45個抽出され、そのうち複数出現した動詞句を挙げると以下のものになった(( )内は、各動詞句に係る主な名詞句)。

つく(授業、身、全員、様々な知識、知恵)、持つ(子、興味、苦手意識、授業)、学ぶ(何、授業)、行う(授業)、気をつける(言葉、行動、授業)、思いやる(児童、生徒、授業)、書く(ノート、メモ)、通す(授業、体、体育)、聞く(生徒、声)、つける(生徒、知識)、引き出す(やる気、意欲)、引きつける(児童、授業)、楽しむ(授業、生徒)、見せる(テーマ、情報)、使い分ける(指導法、授業)、取り込む(授業、情報)、取れる(コミュニケーション、授業)、盛り込む(工夫、授業)、知る(対象語句なし)、伝える(授業、重要性)、理解(クラス全体、授業)、話し合う(時間、授業)

また、指導観では、子どものあるべき姿が形容詞句として出現することが多いため、形容詞句を抽出し、その形容詞句から繋がる名詞句はどのような種類のものがあるか分析(感性分析)した。その結果、形容詞句が13個抽出され、そのうち複数出現した形容詞句を挙げると以下のものになった(( )内は、各形容詞句に係る主な名詞句)。

楽しい(授業)、多い(生徒、声)、得意(子、勉強)

抽出された動詞句の分析から、一番出現頻度が高かったものは「つく」であり、次いで「持つ」「学ぶ」であった。「つく」という動詞句では、「知識が身に付ける」「ついていく」というケースなどがあつた。また、「持つ」では、「苦手意識を持つ」「興味を持つ」などの表現が見られた。

抽出された形容詞句の分析で一番出現頻度が高かったものは、「楽しい」であり、次いで「多い」であった。「楽しい」という形容詞句では、「体を動かす楽しさ」「楽しい授業」という表現が見られた。



### 4.2.3 児童・生徒観について

「教師としてどのような児童・生徒を育てたいか」の回答の一部を以下に挙げる。

【学生2-5】何に対しても一生懸命考え、取り組める意欲的な生徒、自分の考えを隠さず積極的に発言できる生徒、大人になった時に社会で頼りになるような生徒。

【学生2-6】自主性のある児童。受け身で行動するのではなく、自分自身で考え「自分がやりたいからやる」ということが大事であると思う。人に流されるのではなく、“自分”をしっかり持った人間になってほしい。協調性のある児童。小学校では班やグループ単位での活動も多々あると思うので、周りに気を使い、その時々にあった対応ができるような人間になってほしい。

児童・生徒観では、子どものあるべき姿が形容詞句として出現することが多いため、形容詞句を抽出し、その形容詞句から繋がる名詞句はどのような種類のものがあるか分析（感性分析）した。その結果、形容詞句が14個抽出され、そのうち複数出現した形容詞句を挙げると以下のものになった（（ ）内は、各形容詞句に係る主な名詞句）。

楽しい（何事、学校、全力）、好き（子）、うまい（関係、周囲）、前向き（何事、自主的）、大切（我慢）

抽出された形容詞句の分析で一番出現頻度が高かったものは、「優しい」であり、次いで「好き」「うまい」であった。今回の場合形容詞句は、学生が育てたい児童・生徒像を直接表現しているものといえる。

## 4.3 時系列変化について

### 4.3.1 教師観について

「どのような教師になりたいか（どのような教師がよいと思うか）」の回答の一部（同学生）を以下に挙げる。

	第1回調査	第2回調査
学生A	厳しいだけではなく、生徒と一緒に何事も楽しめる。様々な性格の生徒がいるので、どんな生徒の気持ちでも理解でき、自分の考えを押し付けない。指示を出すだけではなく、自分で実際に行ってみせて、授業の楽しさを伝えられる。マイナスではなく向上心を持たせることが出来る。	生徒の学習や遊びなどに対する活動意欲を刺激し、支えていくことができる教師。個々の長所を理解し、伸ばしていくことができる教師。
学生B	生徒が親近感をもって来てくれて、授業のことははじめ、悩みがあったりしたら、私のところに来てくれるような、生徒に頼られる存在になれたら良いと思う。授業は常に興味を持ってもらえるようにしたい。また、生徒の発言の機会を多く設けたい。	私の授業を受けたいと思ってもらえるような、そして親しみを持てるような教師になりたい。ただ授業をして普通に与えられた仕事を行うだけでなく、生徒1人1人を身近に感じ、接することができる教師になりたい。

教師観の時系列変化を調べるために、出現した動詞句、形容詞句に関するコレスポネンス分析を行った（図1、図2）。分析は、2回以上出現した言語を分析対象とし、出現が1回のは除外した。

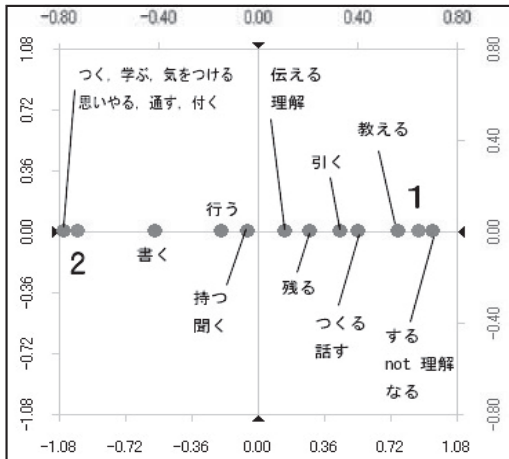


図1 教師観の動詞句の結果

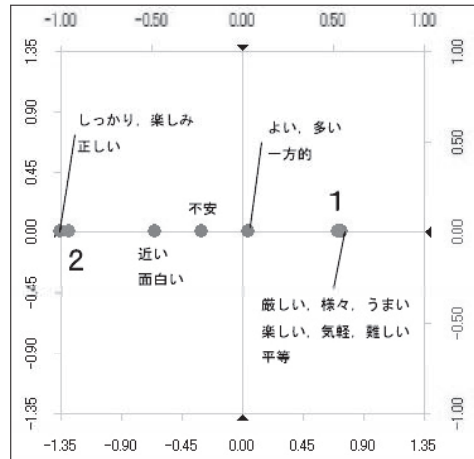


図2 教師観の形容詞句の結果

#### 4.3.2 指導観について

「教師としてどのような授業を行いたいか」の回答（同学生）の一部を以下に挙げる。

	第1回調査	第2回調査
学生C	楽しい授業。わかりやすい授業。典型的な授業ではなくて自分の体験したことなどを含めながら話して印象に残るような授業をしたい。	生徒1人1人に合わせた授業。生徒が授業の問題、質問に対してしっかりと考える時間や友達と話し合う時間をつくり理解できる授業。スタンダードな授業ではなく自分でいろいろと生徒が楽しんで学べるようなオリジナルな授業が行いたい。
学生D	生徒の興味を引くような授業。生徒が飽きない。怪我のないように、始めから注意すべき点を意識させる。メリハリの利いた授業。生徒目線での指導。時間を有効に使いたい。	注目させる工夫が盛り込んである授業。1人1人にあった指導法を使い分ける授業。児童・生徒を思いやる授業。児童・生徒の記憶に残る授業。

指導観の時系列変化を調べるために、出現した動詞句、形容詞句に関するコレスポネンス分析を行った（図3、図4）。分析は、2回以上出現した言語を分析対象とし、出現が1回のは除外した。

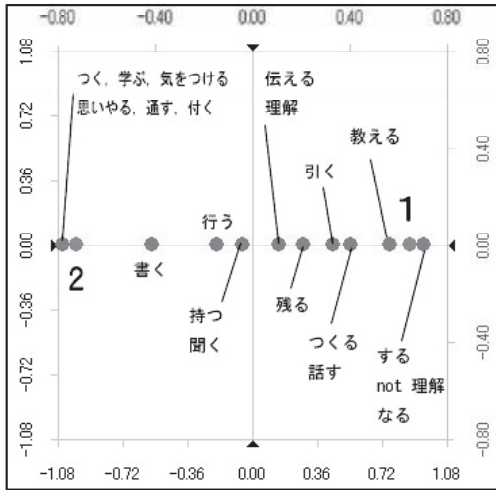


図3 指導観の動詞句の結果

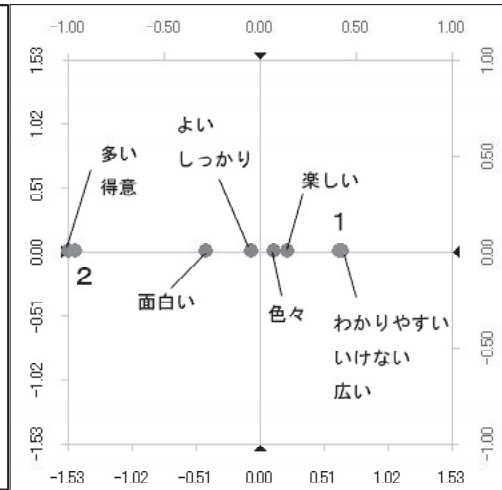


図4 指導観の形容詞句の結果

### 4.3.3 児童・生徒観について

「教師としてどのような児童・生徒を育てたいか」の回答（同学生）の一部を以下に挙げる。

	第1回調査	第2回調査
学生E	「優しい気持ちを持った人」に育てたいです。そして、それは誰にでもある心だと思います。友達をいじめてしまう生徒もちろんあると思います。心の底から悪だけの生徒はいないと思うし、何らかの暗い過去（様々な人間関係や環境）によって優しい心が隠れてきてしまっているんだなと思います。なので、生徒1人1人と向き合って、きちんと話を聞く、どんなに勉強が出来なくても「優しい気持ちを持った人」に育てていきたいと思っています。	私と同じような生徒は育成したくないなと思いました。それは、見かけだけの学習しかやってこなかったからです。私自身、ちゃんと自分でやったという自信もないし、学んだ事柄について誇れる点がありません。次につながる学習というのを生徒に伝えていきたいと思っています。次につながる学習が身に付けば、将来の自信にもなっていくと思います。あと、学習面以外には、“自分を持っている生徒”です。今、現在自分のことを好きになれなかったり、なかなか自信が持てない生徒が多いです。なので、自分というものを何かを考え、生徒1人1人に自分らしさを持ってほしいです。
学生F	人の気持ちを思いやれる児童・生徒。自分以外の人を心から応援できる。解決策を自分で導き出そうとする。目標を持っている児童・生徒。夢中になれるものを持っている。	好きなこと、夢中になれることがある生徒。自分で考えて、意見を言える生徒。友達の意見を聞き入れ、自分とどのように違いがあるか見つけられる生徒。

児童・生徒観の時系列変化を調べるために、出現した動詞句、形容詞句に関するコレスポネンス分析を行った(図5、図6)。分析は、2回以上出現した言語を分析対象とし、出現が1回のは除外した。

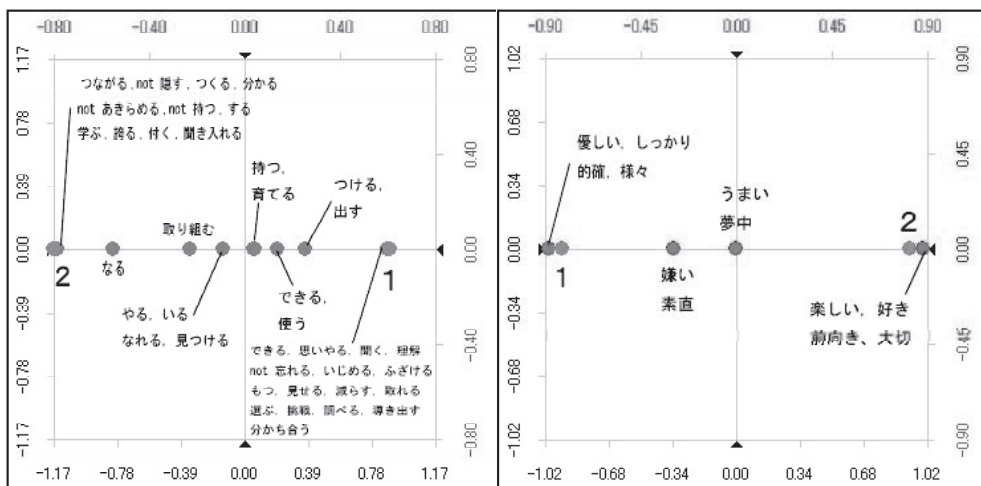


図5 児童・生徒観の動詞句の結果

図6 児童・生徒観の形容詞句の結果

## 5. 考察

本分析では、教師観、指導観、児童・生徒観における4月時期、7月時期における動詞句、形容詞句の出現傾向から、大学2年生の「教師としての意識」を明らかにしようとした。コレスポネンス分析による「教師観」の形容詞句の分析では、1回目の調査では、「楽しい」「うまい」といった漠然とした教師の雰囲気を書いている一方で、2回目の調査では、「しっかり」「正しい」といった、学習の質に言及する表現を使用する傾向が見られた。また、「指導観」の動詞句の分析では、第1回目では「ゴロ合わせで教える」「児童・生徒同士が教え合う」といった、教え方や話し方など、直接的な指導の方法論について言及する傾向が見られたが、第2回目では「楽しんで学べる」「児童生徒を思いやる」といった、学習指導における教師の意識について言及する傾向が見られた。さらに、「児童・生徒観」の動詞句の分析の2回目の調査では、「自分の考えを隠さず」「生徒主体の学級をつくる」「人の気持ちがかかる」といった、他者を意識し、配慮するといった内容の表現が多く使用される傾向が見られた。

この結果から、大学生自身の意識が、教師としてどのように指導するかという具体的な方略に関する視点から、児童・生徒の協同的な学習としての学級環境の視点へと拡がっていることが考えられる。

以上のように、一部の視点における分析では「教員としての意識」の変化として若干の傾向が見られた。しかしながら、全体の傾向としては、4ヶ月という短い期間であったことや、少人数での分析であることから、明確な変化であるとはいえなかったといえる。

## 6. おわりに

本研究の分析では出現語句から分析をしているため、結果には反映されていないが、学生によって記述内容の質に差が見られた。今回の調査では、それが教員という仕事に関して、深く考えていなかったのか、それとも単に書かなかただけかは不明である。しかしながら、2年生の段階ですべての学生がしっかりと「教員としての意識」を持っているとも考えづらく、「教員としての意識」が不十分であると考えられる。そのため、これからの大学における授業では、学生同士が「教員としての意識」に対する見方や考え方を交流させ、様々な教育場面における具体的な対応を学ぶだけではなく、教師としての信念である「教員としての意識」を持った上で学んでいくことが重要である。

本研究では、少ないケースを活用し分析を行った。そのため、信頼性という面で不十分であるといえるだろう。一方で、本研究のような教育に関するテキストデータは、マーケティングのように大量データの収集は非常に困難であることも事実である。しかしながら、学生の理解度やニーズに合わせた指導を行うために、各段階における学生の「教員としての意識」を分析することは重要である。その点では、本研究のような手法をさらに精緻化して開発していく必要がある。

## 7. 引用・参考文献

- 1) 別惣淳二、千駄忠至、長澤憲保ら (2007)「卒業時に求められる教師の実践的資質能力の明確化－小学校教員養成スタンダードの開発－」, 日本大学教育協会研究年報, 25, PP. 95-108.
- 2) 中央教育審議会 (2005)「新しい時代の義務教育を創造する (答申)」, [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05102601/all.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05102601/all.pdf) (2011年1月7日).
- 3) 中央教育審議会 (2006)「今後の教員養成・免許制度の在り方について (答申)」, [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/06071910.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/06071910.htm) (2011年1月7日).
- 4) 教育職員養成審議会答申 (1997)「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について (第1次答申)」, <http://fish.miracle.ne.jp/adaken/toshin/tosin10.pdf> (2011年1月7日).
- 5) 三島知剛 (2008)「教育実習生の実習前後の授業観察力の変容授業・教師・子どもイメージの関連による検討」, 教育心理学研究, 第56巻 第3号, PP. 341-352.
- 6) 那須川哲哉 (2006)「テキストマイニングを使う技術/作る技術—基礎技術と適用事例から導く本質と活用法」, 東京電機大学出版局.
- 7) 日本教育会 (2001)「特集『教員養成』に関するアンケート」, 日本教育, 294, PP. 6-19.
- 8) 山崎 (2007)「教師の力量形成に関する調査研究 (V-3) - 第5回目 (2004) 年調査結果の基礎分析報告: 教師意識の構造 -」, 静岡大学教育学部研究報告 (人文・社会科学篇), 57, PP. 209-230.
- 9) 米沢崇 (2010)「教育実習における教師としての力量形成に対する教職志望学生と初任者の意識の検討」, 奈良教育大学紀要, 第59巻 第1号 (人文・社会), PP. 237-244.

(てらもとたかひろ・國學院大學人間開発学部初等教育学科専任講師)